

JAにおける自己改革および SDGsの取り組み事例

《JA広報誌およびJA自己改革ニュース》

R8 / 1・2・3月分



令和8年3月



JA青森中央会



THE GLOBAL GOALS

【17の目標にかかるロゴマークとそれぞれの目標の解説】

目 標			
<p>1 貧困をなくそう</p> 	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	<p>2 飢餓をゼロに</p> 	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> 	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> 	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> 	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	<p>8 働きがいも経済成長も</p> 	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> 	各国内及び各国間の不平等を是正する
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	持続可能な生産消費形態を確保する
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> 	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
<p>15 陸の豊かさも守ろう</p> 	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	<p>16 平和と公正をすべての人に</p> 	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> 	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する		

SDGsの17の目標は、各JAにおける取組みを通じてすべての目標の達成に貢献できる可能性があり、1つの取組みを通じて複数の目標達成を実現するなど、相互に関わりあう内容となっています。

目次

ページ	J A 名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
1	つがるにしきた	女性部 農産物を格安販売 米出荷 感謝の巡回 新米を社協へ	12 つくる責任 つかう責任	17 パートナリプで 目標を達成しよう		2026年1月号
		地域の活性化	農業者の所得増大			
2	ごしょつがる	つがるメロン協議会 5億円越え目標達成 スマート農業で意見交換 米作り学習の集大成	4 質の高い教育を みんなに	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と技術革新の 基盤をつくらう	2026年1月号
		地域の活性化	農業者の所得増大			
3	つがる弘前	コラボ包装資材 桜田宏市長にお披露目 農の魅力発見！ 家族で楽しく収穫体験 & 施設見学	2 飢餓を ゼロに	9 産業と技術革新の 基盤をつくらう	12 つくる責任 つかう責任	2026年1月号
		地域の活性化	農業者の所得増大			
4	相馬村	小学生農業体験①「お米学習」編 小学生農業体験②「リンゴ学習」編	4 質の高い教育を みんなに	15 陸の豊かさも 守ろう		2026年1月号
		地域の活性化				
5	津軽みらい	カルチャー講座開講 おはぎプリンセス作り教室 次世代リーダー発表で最優秀賞 職員がライフサポーターの資格を取得	4 質の高い教育を みんなに	9 産業と技術革新の 基盤をつくらう	11 住み続けられる まちづくりを	2026年1月号
		地域の活性化				
6	十和田おいらせ	旨い米「まっしぐら部門」で西村さんが グランプリ 秋掘りナガイモ収穫急ピッチ 香り高く豊かな味わいが好評	1 貧困を なくそう	2 飢餓を ゼロに	15 陸の豊かさも 守ろう	2026年1月号
		地域の活性化	農業生産の拡大			
7	ゆうき青森	甲地小児童 ナガイモ選果場を見学 秋掘りナガイモ 高品質出荷を目指す	2 飢餓を ゼロに	4 質の高い教育を みんなに	12 つくる責任 つかう責任	2026年1月号
		地域の活性化	農業生産の拡大			
8	おいらせ	令和7年度 家の光大会開催 全日本ホルスタイン共進会開催 しめ飾り教室を開催	3 すべての人に 健康と福祉を	4 質の高い教育を みんなに	12 つくる責任 つかう責任	2026年1月号
		地域の活性化	農業生産の拡大			
9	八戸	ねぎ販売報告 A品率前年を上回る 寒締めちぢみほうれん草目揃い会 肥料・農業試験結果報告会	4 質の高い教育を みんなに	14 海の豊かさも 守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう	2026年1月号
		農業生産の拡大				

目次

ページ	J A 名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
10	ごしょつがる	水稲部会 生産費確保を要望 最新営農技術を共有 リンゴ剪定 ポイント学ぶ	2 削減をゼロに	8 働きがいも経済成長も	15 陸の豊かさも守ろう	2026年2月号
		農業生産の拡大				
11	つがる弘前	令和7年産りんごの入庫、誠にありがとうございました 改植・新植事業相談会開催 座学による個別剪定講習会開催	2 削減をゼロに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	15 陸の豊かさも守ろう	2026年2月号
		地域の活性化	農業生産の拡大			
12	相馬村	名古屋市より感謝状贈呈 早生・中世種精算報告会 女性部プリザードフラワー&フラワーアレンジ講座	2 削減をゼロに	5 ジェンダー平等を実現しよう	17 パートナースhipで目標を達成しよう	2026年2月号
		地域の活性化	農業者の所得増大			
13	津軽みらい	初心者りんご剪定講座 各地区りんご剪定会開催 営農・生活指導員成果発表会 りんごのトップセールスを実施	4 質の高い教育をみんなに	8 働きがいも経済成長も	15 陸の豊かさも守ろう	2026年2月号
		農業者の所得増大	農業生産の拡大			
14	十和田おいらせ	堆肥供給増へ分析推進 リンゴの良品質安定生産へ 日本の農家はまさに精鋭 誇りと自信をもって	1 貧困をなくそう	4 質の高い教育をみんなに	12 つくる責任 つかう責任	2026年2月号
		農業生産の拡大				
15	ゆうき青森	初荷出立式 気を付けていってらっしゃい！ 子牛初セリ 好調なスタート J A・子会社役職員と語る会 女性部	2 削減をゼロに	5 ジェンダー平等を実現しよう	11 住み続けられるまちづくりを	2026年2月号
		地域の活性化	農業生産の拡大			
16	おいらせ	育てた藍で藍染めに挑戦 パッチワーク教室開催 あみもの教室開催	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	11 住み続けられるまちづくりを	2026年2月号
		地域の活性化				
17	八戸	プロアイスホッケーチーム「東北フリーブレイズ」のホームゲームで農協事業をPR 令和7年産ながいもコンテスト	8 働きがいも経済成長も	12 つくる責任 つかう責任	17 パートナースhipで目標を達成しよう	2026年2月号
		地域の活性化	農業生産の拡大			
18	つがるにしきた	剪定技術向上へもちつき楽しく ペったんぺったん 業とらざりんごの生産者アンケート 集計結果を発表 春の出荷に向け 育苗管理進む	2 削減をゼロに	4 質の高い教育をみんなに	17 パートナースhipで目標を達成しよう	2026年3月号
		地域の活性化	農業生産の拡大			

目次

ページ	J A 名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
19	ごしょつがる	組織力強化へ キュウリ販売実績を報告				2026年3月号
		地域の活性化				
20	つがる弘前	中央地区商品研修会開催 弘前北地区りんご部会協議会 視察研修 開催 「知っておきたいお金の話セミナー」開催				2026年3月号
		農業生産の拡大				
21	相馬村	青色申告会研修会 ライスロマンクラブ総会開催 令和8年度冬期講座開催				2026年3月号
		農業生産の拡大				
22	津軽みらい	女性部各支部で通常総会 田舎館小学校豆腐作り教室 強盗を想定した防犯訓練 大口米出荷者研修会				2026年3月号
		地域の活性化				
23	十和田おいらせ	ももいし野菜センターで新春農協まつり 冬の味「ごと」再注目 青年部つきたて餅が大人気				2026年3月号
		地域の活性化				
24	ゆうき青森	令和7年度青年部協議会総会 令和7年度女性部通常総会 フルーツサンド作り 女性部らくのう・ 野辺地支部				2026年3月号
		地域の活性化				
25	おいらせ	郷土料理のすいとんを振る舞う PPバンドを使ってバッグ作成 育てた藍で藍染めに挑戦				2026年3月号
		地域の活性化				
26	八戸	ピーマン新規作付者講習会 桃 剪定講習会 南部支店 年金友の会の集い				2026年3月号
		地域の活性化				



10/10、12



女性部 農産物を格安販売

女性部深浦支部は10月10日、深浦事業所前で「収穫祭」を行い、新鮮な農産物を100円など格安で販売しました。女性部が育てた野菜や果物などがずらりと並び、買い物客で朝から賑わいました。

女性部つがる白神支部は10月12日、つがる白神統括支店前で「朝市」を開きました。テーブルや軽トラに積まれた野菜など20種類が並びました。購入したお客様からは「安くて助かる。毎週開いてほしい」との要望もありました。

深浦支部長の福沢和子さんとつがる白神支部の生田光子さんは「今年の天候で販売する物が揃うか心配だったが、女性部のみなさんの協力があって開催することができた。お客様に喜んでもらえて良かった」と笑顔を見せました。



女性部深浦支部のみなさん

女性部つがる白神支部のみなさん

10/15、16



米出荷 感謝の巡回

2025年度の米の出荷者に対し感謝の意を伝えるため、各組合員宅への巡回を行いました。巡回では、出荷者一人ひとりに対するお礼と来年度の出荷契約のお願いを行い、今後も農業支援を継続していくと話しました。

巡回先の組合員からは「直接農協からお礼を言われるとこれからも頑張ろうという気持ちになる。今後も協力しながら、おいしいお米を作り続けたい」との声も聞かれました。



本年産米の出荷に感謝の意を伝える山中組合長

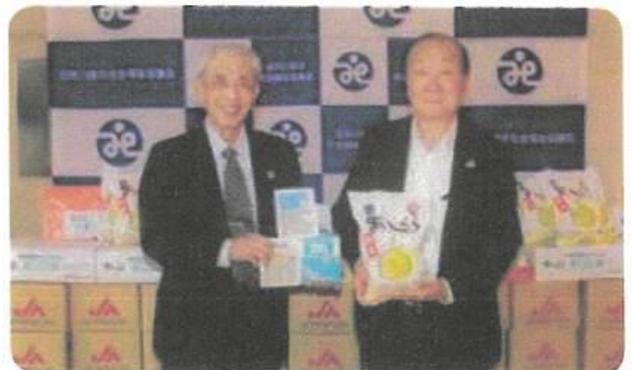
10/16



新米を社協へ

地域福祉の充実に役立ててもらおうと、五所川原市社会福祉協議会へ新米の「まっしぐら」300袋（1袋2kg）と、県産米パックご飯10ケース（1ケース18個）とエコバック300個を寄贈しました。JAとしての寄贈は5年目となりました。

10月16日に五所川原地域福祉センターで贈呈式を行い手渡しました。寄贈した米は、10月18日に行った「こども宅食おすそわけ便」に活用され、子育て世帯約500世帯に配布されました。



乗田孝一会長に米を手渡す山中組合長

12月9日

つがるメロン協議会 5億越え目標達成

J AごしよつがるとJ Aつがるにじきたで構成するつがるメロン協議会は、つがる市で販売報告会を開きました。出荷数量は14万7436箱で、目標としていた15万箱には届かなかったものの、販売金額は5億4436万円と計画を上回りました。

報告会には生産者や市場関係者ら約90人が参加し、今年の作柄や販売結果、市場の動向を共有しました。近年は温暖化の影響で栽培環境が厳しくなっており、従来の技術向上に加え、高温に強い品種の導入検討など、新たな取り組みの必要性が話題になりました。

また、報告会では優良生産者を表彰し、当J Aからは5人が受賞しました。

*秀品率の部

【タカミ】

原田 拓夫さん

【レノン】

木村 宗平さん

【キスロマン】

新岡 真吾さん

*総出荷の部

第2位

安田 克則さん

第3位

須藤助十郎さん



賞状を受け取る木村宗平さん

12月9日
・10日

スマート農業で 意見交換

担い手法人会は視察研修で北海道のJ A新しのつを訪れ、石狩管内・新篠津村I C T農業研究会との意見交換を行いました。

同研究会が取り組むスマート農業やI C T導入の経緯等の説明を受ける他、自動操舵の活用や人工衛星による生育判断ツール、J クレジットへの取り組みの事例紹介も行われました。参加した法人会員は、導入の流れや効果について積極的に質問し、スマート農業への理解をさらに深めました。



J A新しのつで行われた意見交換会

12月11日

米作り学習の集大成

つがる市立瑞穂小学校5年生が、1年間の米作り学習の締めくくりとなる「収穫感謝会」を開きました。田植え・稲刈り・脱穀の各作業を1年間にわたって共に行ってきたJ A女性部からも6人の部員が参加し、各班に入りながら調理をサポートしました。

この日は、児童が自分たちで収穫したお米を鍋で炊き上げ、味噌汁作りに挑戦。さらに、班ごとに話し合っ決めておかず・デザートも調理し、班ごとの工夫が光る料理が出そろいました。

出来あがった料理は、米作り学習に協力した方々にも振る舞いました。初摺りを引き受けた経済課の片山和善課長も招待され、児童らと一緒に米の味を堪能しました。調理も食事の時間も、女性部員と児童が一緒に楽しむ温かなひとときとなりました。



ご飯の炊きあがりを確認する女性部員と児童ら



11
27

コラボ包装資材 桜田宏市長にお披露目

昨年に引き続き、バーチャルシンガー「初音ミク」とコラボレーションしたデザインのポスターと贈答用りんごの包装資材が完成したことに伴い、天内組合長と企画販売を担当する販売課職員は弘前市役所を訪れ、桜田宏市長にお披露目しました。桜田市長は



「素敵な化粧箱を開くと、味・品質ともに最高のJAつがる弘前のりんごが入っているのはとても魅力的」と、完成を喜びました。同課の出雲課長は「コラボ第2弾では、黄色系りんごのおいしさも全国の消費者に伝えたいと思い、ブロードヘアーの新たなキャラクターを加えた。JAつがる弘前りんごを、初音ミク、鏡音リン・レンとともにPRしていく」と意気込みを話しました。

贈答用りんご3キロ(9~10玉入り)が入った新たな化粧箱の販売は、当JAと弘前観光コンベンション



協会など、さまざまなECサイトやイベント会場で販売する他、弘前市ふるさと納税返礼品にも提供しています。



11
9

農の魅力発見！ 家族で楽しく収穫体験&施設見学

総務課くらしの活動係は、「家族で楽しく収穫体験&施設見学会」を開催し、7組20人の親子が参加しました。地域農業や当JAへの関心を高めてもらう事を目的に昨年から実施し、今回が3回目となります。

収穫体験では、やさしい育苗センターで担当職員が品種の特長やおいしいりんごの見極め方、収穫方法などを説明した後、「サンふじ」の収穫に挑戦しました。

施設見学では、東部ライスセンター内の設備を見学しながら、お米が消費者に届くまでの生産者とJAの役割について学びました。

見学後は、令和7年産米「はれわたりに」が当たるくじ引きを行い、引いたくじに書かれた

回数のお米のす
くい取りを楽
しみました。

参加した親
子は「普段、
口にしてい
るお米や果物は、
農家の方々が
一生懸命栽培
していることを子どもに知ってほしいと
思い参加した。とても良いイベントなの
で継続してもらえたら」と笑顔で話しま
した。同課の山谷課長は「今後も、さまざ
まなイベントを通して、農の魅力や大切
さを発信していく」と意欲を見せました。



小学生農業体験①
「お米学習」編

12月10日、中央公民館相馬館において、女性部と相馬小学校の5年生16名が調理実習を行いました。これは、お米に関する学習を授業の一環として行う初めての試みです。4月下旬のJA育苗施設見学から始まり、5月には田植え、9月には稲刈りが行われ、そして今回の調理実習がその締めくくりとなります。

児童たちは、県産米の「まつしぐら」「青天の霹靂」「はれわたりの食べ比べ」とおにぎり作りを体験しました。3つの班に分かれ、児童たちにお米が好きか尋ねると、「全部おいしい」「家でよく食べているから青天かな」「初めて食べたけどはれわたりの美味しー」といった声が聞かれ、普段できない体験に目を輝かせていました。その後、児童たちは女性部員と共におにぎりを作りました。具材には「ゆけ」「昆布」「シーチキン」などが用意され、それぞれ個性豊かなおにぎりが作られていました。中には、用意された具材を全

て入れて、まるで昔話に出てきそうな特製おにぎりを作った児童もいました。会場は児童と女性部員の笑顔であふれていました。

田澤真由美女性部長は、「今後もこの学習を続けていきたい」と語っていました。



小学生農業体験②
「リンゴ学習」編

12月12日、弘前市立中央公民館相馬館において、相馬小学校の3年生10名が、リンゴ学習の結びとしてリンゴを使ったお菓子作りを体験しました。

作るお菓子はアップルパイとリンゴクレープで、児童たちは各テーブルについて、女性部の清江美幸さんの説明を聞きながら、女性部員のサポートを受けてお菓子作りを進めました。アップルパイには、「ジェノバ」という赤い果肉の製菓用リンゴを使用しました。

アップルパイが焼かれている間に、リンゴクレープを作りました。クレープ生地にはリンゴジャムや生クリーム、チョコスプレーなどの飾り付けを行い、給食を食べた後にもかかわらず、児童たちはクレープをあっという間に食べてしまいました。



クレープを食べた後、児童たちは余った生クリームやリンゴジャムをつまみながら、調理中のアップルパイの焼き上がりを待ち、できあがったアップルパイを持ち帰りました。

「3年生で行うこの学習が、卒業する際に小学校生活の中で最も楽しかった思い出として挙げる子もいるんですよ」と担任の田澤先生が話してくれました。今回、体験した児童たちも楽しい思い出になると良いなと思いました。



カルチャー講座開講



営農課は12月上旬、「JAカルチャー講座」を開講しました。同講座は組合員をはじめ、地域住民が趣味を楽しみながら交流することを目的としており、毎年行っています。

料理や茶道、絵手紙など全13講座を用意し、受講者は令和8年2月まで交流を楽しめます。



カルチャー講座 料理教室

おはぎプリンセス作り教室



営農課は12月15日、本店でおはぎプリンセス作り教室を開き、組合員10人が参加しました。

参加者は講師の説明を聞きながら、丸型に整えたもち米を、カラフルなあんこでデコレーションし、最後に人型のプレートをおはぎにさして、ドレスをイメージしたおはぎに仕上げました。



作り方を教わる参加者(左)

次世代リーダー発表で最優秀賞



12月12日、JA青森中央会が開いた「次世代リーダー育成研修会修了発表会」で、人事教育課の葛西恭子主任が最優秀賞を受賞しました。

葛西主任は「働きがいのあるJAを目指して～みらいを描ける職場環境づくり」と題し、人事考課戦略を提案。職員のモチベーション低下や離職を防ぐため、所属長との定期面談ややりたい職員像を記す「みらいノート」の作成を提起しました。

葛西主任は、令和8年2月に開催される第16回JA戦略型中核人材育成研修全国研究発表会に出場します。



最優秀賞を受賞した葛西主任(中央)

職員がライフサポーターの資格を取得



常盤支店の古川知里主任が、ライフサポーターの資格を取得しました。今回は県内のJA職員10人が受講し、当JAでは4人目の認定となりました。

ライフサポーターは個人の資金計画や人生設計をサポートするため、金融、税金、年金などの幅広い知識を必要とする資格です。12月10日には本店で認定式が行われ、奈良寧組合長から認定証が渡されました。



認定証を受け取った古川主任(中央)

12/24

12/24 旨い米「まっしぐら部門」で 西村さんがグランプリ

2025年産県産米の食味などを評価する「あおもりの旨い米グランプリ」のまっしぐら部門で、むつ市の西村一松さんがグランプリに輝きました。

同コンテストは15年産から、県産米のさらなる評価向上に向けて、良食味の米生産者の機運醸成を図る目的で開かれています。今回は「まっしぐら」「はれわたり」「青天の霹靂」の3品種で計183点が出品されました。

西村さんは3度目の出品で初めてグランプリを獲得。下北地域は平地が少なく、米作りは難しいとしながらも、「作るからには良いものを生産したい」との思いで励んできました。「下北でも良い米が作れると他生産者の希望になればうれしい。新しい品種にも挑戦しながら、持続して良品質な米を生産したい」と喜びを語っていました。



▲「まっしぐら部門」でグランプリを受賞した西村さん

12/16

12/16 秋掘りナガイモ収穫急ピッチ



▲ナガイモの秋掘り作業を急ピッチで進める山田さんのほ場

JA管内では12月末までナガイモの秋掘り作業が急ピッチで進められました。降雪の影響で作業に遅れがあり、同月16日時点で進捗率は6割。作柄は平年に比べてやや細長い傾向です。JAでは冷蔵貯蔵施設を活用し、ナガイモの周年出荷体制を確立しています。取引先の要望に応える長期間の安定供給で、売り場の確保と有利販売につなげます。

七戸町の山田真一さんは、母のとき子さんらと掘り取り作業に精を出しました。ナガイモを傷つけないようにバックホーで土を掘り起こし、スチールコンテナに並べる作業を繰り返していました。真一さんは「今年はナガイモの熟成がゆっくりと進んだこともあり作業がなかなか進まなかった」と話し「刻んだナガイモにカクテキキムチを和えると食感よくおいしいのでおススメ」とアピールしていました。

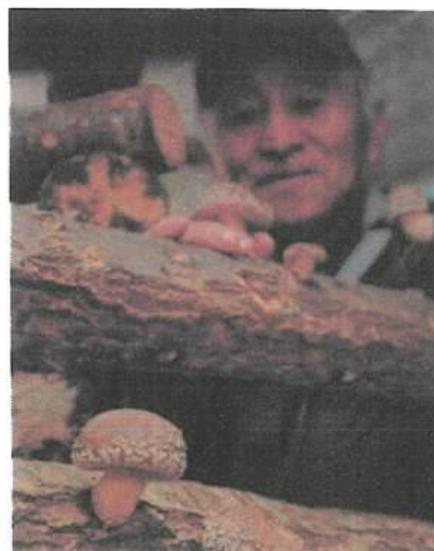
12/23

12/23 香り高く豊かな味わいが好評

JA管内で、原木シイタケの出荷が本格化しています。夏場の高温や乾燥の影響で、発生率は例年に比べるとやや鈍いですが、肉厚で香り高く仕上がりました。原木シイタケの栽培管理は重労働のため生産者が減少していますが、確かな品質と豊かな味わいが好評で直売所「かだあ〜れ」でも人気を集めています。

十和田市の笹森金太郎さんは2,000本の原木シイタケの栽培に取り組んでいます。1月から3月に植菌作業をし、12月上旬から収穫がスタート。ピーク時には日量15キロを出荷します。ほだ木に水をかけたりハウス内の温度を保ったりすることで、1本のほだ木から3回収穫することができます。

笹森さんは「初取りの今が、一番味が乗っておいしい時期。肉厚で食べ応えがあるのでぜひ味わってほしい」とアピールしていました。



▲原木シイタケの収穫をする笹森さん

12/11 甲地小児童 ナガイモ選果場を見学



ロボットで仕訳けされているナガイモを見学する児童

J A ゆうき青森は、東北町立甲地小学校の施設見学を受け入れた。児童7人は、選果作業の様子を見学し、町の特産品であるナガイモの理解を深めた。

ロボットによるナガイモ箱の自動仕分けの様子や貯蔵庫の中を見学した。貯蔵庫の中では、積み上げられているスチールの量や鮮度を保つために設定されている4℃に大興奮した様子で、熱心にJ A 職員の話を書き取っていた。

このほか、リフトが動いている様子や事務所内を見て回り、「これは何の機械ですか？」などと積極的に質問していた。

12/15 秋掘りナガイモ 高品質出荷を目指す



ながいもの洗浄・選別を確認する役員たち

J A ゆうき青森野菜振興会ながいも部会では六ヶ所・本所営農センターながいも洗浄選別施設にて、ながいも部会役員が洗浄選別確認検査を実施した。

それぞれの施設において、選別後のナガイモが出荷規格に沿って統一されているかどうか確認することを目的として春・秋2回行っている。

本年産は細長く折れやすい状況で、選果場では細心の注意を払いながら作業を進めている。甲地優志ながいも部会長は、「本所・六ヶ所の両施設でしっかりと規格統一されたナガイモを出荷し、市場や消費者からゆうき青森ブランドの信頼を得たい。」と話した。

笑味ちゃん × HELLO KITTY



いっしょに、



国消国産!

「国消国産」は、「私たちの国で消費する食べものは、できるだけこの国で生産する」という考えです。子どもたちの世代に「食」の安心をつなげていくために、いっしょに「国消国産」を進めていきましょう。





令和7年度 家の光大会開催

12月9日に青森県農協会館で開かれた「令和7年度青森県家の光大会」の家の光三誌普及・活用優良表彰でJAおいらせとJAおいらせ女性部が表彰されました。

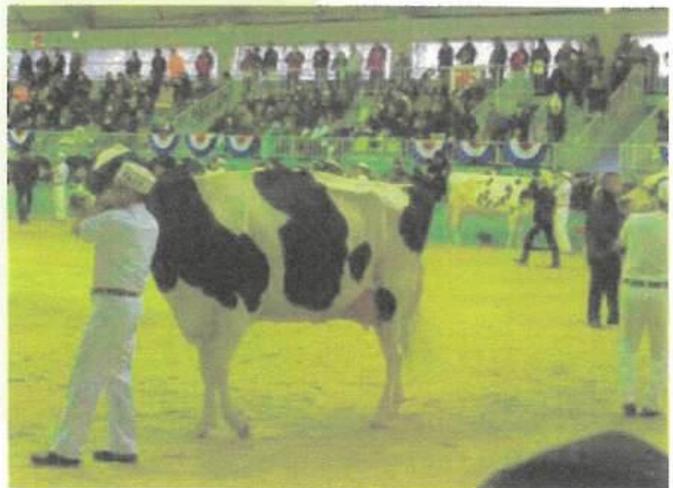
JAおいらせは、『家の光』高率普及優良JA、『家の光』12月号普及優良JA、『ちゃぐりん』8月号普及優良JAの3部門で、JAおいらせ女性部は『家の光三誌』の普及活動に積極的に取り組み、普及・活用優良団体として表彰されました。長期にわたりJAが一体となって普及運動に取り組み、県内で高普及率を維持していることが評価されました。



全日本ホルスタイン共進会 開催

令和7年10月25日～26日、北海道安平町にて全日本ホルスタイン共進会が開催されました。全日本ホルスタイン共進会(全共)は、「乳牛のオリンピック」と呼ばれ、乳牛の改良度合いを比較審査するために、各都道府県を代表するホルスタイン種を一堂に集めて5年毎に開催されています。前回はコロナ禍の影響を受け中止となった為、実に10年ぶりの開催となり、全体で386頭が出品され、月齢によって20の部類へ分けられ、審査が実施されました。

当農協からは隣サウザンドリーフが1頭を出品し、入賞とはなりませんが、全国規模の共進会に参加することで多くの学びを得られました。



女性部

しめ飾り教室を開催



女性部は、12月3日に本支店でしめ飾り教室を開きました。合わせて19人が参加し、花パレットの岩原綾講師の指導の下、女性部員らは稲穂や花を持ち寄り思い思いに作品を仕上げました。

今回のしめ飾り教室で作った作品は、アーティフィシャルフラワーのしめ飾りで、新年を司る年神様を祭るのにふさわしい神聖な場所だということを示すもので、不浄なものを入らないようにするために作られたことが由来。

部員らは、グルーガンを使って飾りをくっつけて作品を仕上げていきました。



乙女座
8/23～9/22

【全体運】勢いのある好調運。実力をアピールすれば念願がかないます。すぐには諦めず強気で。華やかな場所にツキあり。
【健康運】良好です。体を動かしてパワーアップ!
【幸運の食べ物】長ネギ

獅子座
7/23～8/22

【全体運】周囲の世話を焼くのは◎。ただ見返りを求めるとギクシャクします。善悪でできる範囲にとどめましょう。
【健康運】適度な運動が体調維持の鍵。ストレッチが吉。
【幸運の食べ物】セロリ

ねぎ販売報告 A品率前年を上回る



▲ あいさつをする堰合支部長

ねぎ専門部八戸支部は12月4日、八戸パークホテルで開いた販売報告会を行い、生産者やJA職員、市場関係者ら37人が参加しました。堰合繁支部長は「今後の目標として、A品率65%以上を目指し、10aあたり最低750ケースを目指していきたいので、指導力の強化をお願いしたい」とあいさつ。

生育経過について、八戸営農センターの盛幸弘係長は「春先の土壤乾燥、夏場の高温に悩まされたが、2L率、A品率も前年を上回っています。異常気象に負けず対応できる生産者が多くなり、技術の向上を感じます」と報告しました。

販売経過は、同センターの三浦義博販売担当が行い、「出荷ピーク時には、県産でL級中心の販売となったことや他東北産では太物の発生が少なく、総量が平年よりも少なく推移したことで、価格は強含みとなりました。価格は堅調に推移しました」と説明しました。

寒締めちぢみほうれん草目揃い会



振興野菜専門部は12月8日、五戸営農センター（西部）で、寒締めちぢみほうれん草の目揃い会を行いました。

生産者が持ち寄った「寒締めちぢみほうれん草」の糖度を計測。11人全員のほうれん草が糖度8度以上の結果となりました。

荻野暉販売担当は形状、色沢、株ぞろいが良好なことや糖度8度以上であることなど出荷規格を説明し、「他産地よりも品質がいいと評判です。3月に入ると価格も下がってくるので、12月下旬から2月上旬にかけて出荷してください」と説明しました。

谷地村哲也指導員は「ハウスの側窓を開放して冷気にあて、少しでも糖度をあげるよう品質向上に努めてほしい」と生産者へ呼びかけました。



▲ 糖度測定の様子

肥料・農薬試験結果報告会



▲ あいさつをする金澤常務

営農経済部は12月11日、八戸パークホテルで令和7年度肥料・農薬試験結果報告会を行い、肥料農薬資材メーカーなどの関係者やJA役職員70人が参加しました。

金澤幹雄営農経済担当常務は「お互いに疑問に思った部分は質問しあい、生産者がよりよい生産になるように努めてください」と呼びかけました。

この報告会は、品質向上や収量の増加や低コスト化のため、組合員へ提供する新たな農業資材の検討を目的に毎年開催しています。

JAは、農作物20品目に対し、メーカー27社と肥料、農薬や資材などを検討し、営農指導員が品目ごとに生育、防除、使用方法などの試験結果を報告しました。試験結果を参考に、メーカーへ次年度の再試験に向け要望を出していくとともに、効果が期待できる肥料や農薬などについては、春資材予約注文書へ記載し、生産者へ情報提供していきます。